

詠む広

新年をことほぐ

ガザ

米川千嘉子



襦袢のみ着けて置かれてあしすらの
さむさに遠く水仙香る
目をつむるこのひとときの暗黒にひ
びく痛みを新年とせむ

令和六年のゆめ

加藤 治郎



はらからのみんな集まるひとときよ
三ヶ日みかんまんなかにある
みかんを剥いていたのは夢かあか
かと海の方こうで戦争終る

レモン

水原 紫苑



夢見ざる巴里の百夜を胸うすきはし
ほそがらすわたるばかりぞ
新しき年の初めに買ふレモン地中海
の匂ひゲートの匂ひ

光

伊藤 一彦



去年逝きし人のいのちのみなぎれる
光とおもふ元旦の朝に
光には声はなけれどひびきあり耳す
まし聴く遠き近きを

毎日歌壇

米川千嘉子選

加藤 治郎選

水原 紫苑選

伊藤 一彦選



友達の年齢層は年を追うごとに広がる敬語
まじりに 横浜市 友常 甘酢

△評▽年齢とともに友人の年齢層が広が
るといふのは私にも実感がある。「敬語
まじり」にも大人ならでは。巧みな結句。

本日は一番前で見たかろう酒注ぎまわる新
婦の父は 東京 富見井高志

△評▽大勢集まる結婚式も復活した。新
婦の母も新郎の親も前で見つと見たい。

吾に合いて老眼鏡を掛けるとき亡夫の温も
り耳の上にある 大阪市 森川 慶子

小春日の木漏れ日をゆく車椅子しあわせは
いつもゆっくり進む 浜松市 久野 茂樹

「離婚する」LINEでもらう冬空に友の
優しい覚悟は光り 東京 新井 将

「孫といふ言葉を選けて投稿歌かわいさ自慢を
」をさな」に込める 高崎市 樋浦マサエ

どうしよう蹴鞠の鞠を拾ったらぐにゃりと
へこみ慌ててしまふ 奈良市 梅本 幸子

老い一人押しくらまんじゅうのどげんか勝つても
負けてもあたたかくなる 桜川市 海老原順子

CTは私の脳を切り分ける隠した記憶を盗
むのは誰? 所沢市 里見 脩一

年賀状来年は何枚にしようかと質状遠慮の
枚数かぞえる 前橋市 角田 親俊

葉の上の丸々とした白露が光の羽を四方に
ひろく 摂津市 石少山裏裏

△評▽白露がまばゆい。美しいイメージ
である。光の羽という比喩が巧みだ。生
命が照らされるような至福感がある。

雪の日の回転木馬はきこなく子供ひとり
を静かに揺らす 大津市 世田 夏雪

△評▽静かな回転木馬である。きこちな
い動きに懐かしさがある。夢のようだ。

えんそうば、えんそう馬ってラジオから数字が
逃げていったまひるま 宇都宮市 霧島あきら

「虚構行き」の列車が停まる顔のない人で溢
れるプラットホーム 横浜市 砂月 七

怒らない美しさとは 夕ぐれの野原にとお
く女は燃えて 所沢市 神田 望

借りた本を返すために待ち合わせた動物園
にきみは来なくて 京都市 小川 ゆか

職業はやや背伸びして農業と書けり百坪の
家庭菜園 霧島市 秋野 三歩

さみしくて踊っています深夜二時まぶたが
重い一輪の花 横須賀市 森久保りりか

三畳の下宿でいつも思ってた俺たち家を持
てるのだろうか 守谷市 夢 穂人

ピアノの音超絶技巧でゆび走り例えは雪の
三軒茶屋に 横浜市 高橋 理恵

本棚を身体とすれば心臓に当たる部分の本
を教えて カナダ よだか

△評▽愛の呼びかけだろう。本棚の心臓
に当たる部分の本はどんな美しい言葉を
たたえているのか。

たましいは宿るのではなく在るのだと夕映
のなか俯する木々 平塚市 芝澤 樹

△評▽木々の声が聞こえ、その魂の存在
を知る夕暮れは詩に選ばれた時間である。

人間が抱えた闇を塗る黒が二十四色に一本
しかない 札幌市 橋 晃弘

新しい針落とすとき マイルスに殴られた
人そうでない人 雲南市 熱田 一俊

まひるまの影を曳きつつ筆りを聖人伝の
如きぶたうを 東京 松澤 もる

ウエネチアングラス見つめている真夜のどこ
からか始まる明晰夢 松本市 飛 和

太陽の距離が微妙に差をつける地球を少し
ずらせなかな 明石市 小田 慶喜

遊覧船はあはれ白鳥の姿して湖の中にて飼
ひ殺す 甲府市 村田 一広

眠る街を木琴として牡丹雪がぼろん、ぼろ
んと奏でいたり 金沢市 塩本 抄

真っ直ぐに上へ上へと伸びている裸になっ
た銀杏の並木 仙台市 梅津シゲル

ウクライナ、ガザ、ジミン、オスプレイ大
谷さんに夢中な理由 鎌倉市 佐々木 真

△評▽大谷翔平選手の話に多くの人が
夢中に。作者は他が暗いニュースばかり
ということも理由として考える。

知らざるや敵を壊滅させるため巨大な怨み
生みつつあるを 神戸市 小林 照明

△評▽壊滅させられた側のうらみは半永
久的で、再び悲劇を招くという洞窟だ。

武器無くば素手で少年少女らを殺せるだろ
うかイスラエル兵 吉野川市 喜島 成幸

ウクライナにてガザにて世界にて尽きる事
無く開戦日続く 須崎市 野中 泰佑

人類の生まれ故郷アフリカ離れ求めた旅は
「より良く」のはず 高砂市 嶋谷タクオ

雨傘を折られふるさと奪われた周庭さんは
「自由に生きたい」 新発田市 飯田 英範

盤石の土台のゆえに欠陥品のせても安心
議事堂あおぐ 仙台市 多田 宣文

大切なひとのダイヤル指先が覚えていたこ
ろ神話のごとし 富士見市 松本 尚樹

現在形だけのところで生きて猫のあく
びはいつも全力 千葉市 芍 葉

ホームランより剛速球よりあこがれる大谷
選手の心の強さ 春日市 伊藤 亮

投稿規定

し、宛先は干部、短歌は「〇先生(希望